

婚活のスタートは、相手目線を意識すること ～婚活スタイリストからの視点～

■「好きな服」と「似合う服」



普段から「好きな色・服」を選んでいた飲食店勤務の A さんは、「お気に入りの服で、デートに向かう」40 代の一般的な女性でした。ところが長い活動期間の割には、1 回目のデートで終わってしまうことも多かったようです。

そんな A さんが結婚相談所主催のファッション講座を通じて、婚活スタイリストである私の存在を知り、ここから彼女の婚活は激変しました。というのも「好きな服が、似合うとは限らない」という考えが、彼女の心に響いたからです。

■成功体験からの脱却

好きな服は、自身のモチベーションを高めてくれる」もの。一方「似合う服は、周囲からの評価を高めてくれる」という効果もあるわけですが、好きな服と似合う服が、必ずしも一致する訳ではありません。

のべ 5,500 人以上の買い物に同行してきた私は、これまで数多くの男女が「好きな服」という思い込みに囚われていると感じてきました。人は皆、過去の成功

体験に縛られやすいものです。たとえば「その赤い服、ステキだね！」と一度でも言われたら、「赤い服が自分には似合うんだ」と思い込みがち。ここに見落としがあります。

それは「過去に評価された服が、好きな服になりがち」だということ。そして当時のあなたと今のあなたは、「年齢の変化から、もはや別人である」という視点です。だからこそ好きな服をアップグレードしていくことが役立ちます。

■健康的な色気を大切にしよう

婚活デートの服をコーディネートするうえで、「健康的な色気」を、男性目線で盛り込むことを大切にしています。たとえば男性目線では、「スカート＝女性らしさ」を感じるものです。というのも男性はスカートをはかないため、女性を連想しやすいからです。

とは言ってもスカートをおすすめしている訳ではありません。大切なのは、全身のどこかに「健康的な色気」を感じさせるポイントをつくること。たとえば骨格的にスキニーパンツが似合う場合、流行には反しますが、足のフォルムが出やすいスキニーパンツを選びます。

一方、脚のラインが隠れるワイドパンツならば、鎖骨が見えるトップスで「華奢さ」を演出する工夫もあります。ただAさんの場合、柔らかいセーターが上半身の骨っぽさを目立たせてしまい、女性らしさを損ねていました。

■メンズアイテムも活用できる

そこでAさんのケースでは、メンズアイテムでもよく登場する張り感あるトレンチコートをピックアップ。またコートを脱いだとき、シンプル過ぎないようにアクセントにスカーフを添えたのです。

コーディネートの直後、彼女からいただいた感想を紹介します。「自分では絶対に選ばない洋服だったけれども、確かにこういう恰好の女性っているよね。なんか新鮮な気持ち！」という言葉いただきました。

そして、その半年後、彼女から結婚報告をいただいたのです。次は、あなたの番です。いつもと異なる目線で、デート服を用意してみてください。ポイントは全

身のどこかに「健康的な色気」を盛り込むことです。

自分の常識にとらわれず、婚活イベントに向かうときは、服装を磨くこともお忘れなく。

■筆者プロフィール

買い物に同行するスタイリスト 森井良行

のべ 5500 人を超える買い物に同行。なかでも婚活されているクライアントからの信頼は厚く、ファッションに加え、エスコートや立ち振る舞い、コミュニケーションを指導し、これまで 200 人以上の方から成婚報告を受ける。その実績が評価され、大手出版社よりファッション書籍 5 冊を出版。不定期ながらテレビ出演している。